

ソーラーシェアリングのメリット

農業収入と安定した売電収益



ソーラーシェアリングは営農をしながら売電を行うため、農業による収入と、売電による安定した収益を確保することができます。

地目が農地のまま支柱部分のみを転用するため、固定資産税が安価

地上に設置する太陽光発電設備と比べ、ソーラーシェアリングは支柱部分のみを転用するため、転用面積が小さく、固定資産税も安価なままです。

導入に必要な条件

- ・ 太陽光発電設備の支柱部分を、農地の一時転用として農業委員会から許可される必要があります (ガリレオで取得実績多数)
- ・ 1年ごとに収穫量に関する報告をする義務があります
- ・ 一時転用許可の期間は3年間 (一定の条件を満たす場合10年間に延長可能) のため、1年ごとの報告と営農実績をもとに再許可を取得する必要があります
- ・ 同じ年の地域の単収と比較して8割以上の単収であり、大きく品質低下がないことが必要です。

— 導入をお考えのみなさまへ —

- ✓ 安定した営農の継続が必要です。 ✓ 1反の農地で50kWのモジュールが設置可能です。^{※1}
- ✓ 独自の駆動システムにより、必要光量の調整ができます。

ガリレオでは営農型太陽光発電の設置に必要な農業委員会からの一時転用許可取得のノウハウがあります。経験豊富なスタッフが、お客様の手続きを最大限にサポートいたします^{※2}。

^{※1} 農地の形状や傾斜、農作物によって必要な面積、使用機械によって設置可能な設備が変わります (遮光率50%)。
^{※2} 書類作成や手続きを代行するものではありません。また申請の結果を保証するものではありません。

会社概要

株式会社ガリレオは、1990年の会社設立以来、より低コストで効率の良い社会の実現を目指して、インターネットを活用したシステム・サービス開発に取り組んでいます。再生可能エネルギー分野においては、「社会への貢献がビジネスの本質」との理念に基づき、低コストで運用可能な太陽光発電量測定・遠隔監視サービス「測電LITE®」の開発・提供を皮切りに、近年注目が高まってきている太陽光発電、営農型太陽光発電関連事業を展開しています。温暖化防止やエネルギー自給率向上に寄与するための新技術開発を進め、特許を出願しています。最新のインターネット技術で低コストのサービスを実現し、採算の最大効率化をバックアップするガリレオにご期待ください。

主要取引先：日本マイクロソフト株式会社、NTT レゾナント株式会社、株式会社 NTTPC コミュニケーションズ ほか多数

※発電量・売電金額等のシミュレーションは、システムの容量・地域差・環境条件・損失等を考慮した平均的な値であり、保証するものではありません。
※制御システムはAC100Vの電源が必要です。設置場所の状況によって、電力会社と別途契約が必要になる場合があります。
※制御システムはインターネットを経由して角度情報を取得するため、設置場所に制御システム機器のイーサネットポートに接続可能なインターネット回線が必要となります。設置場所の状況によって、別途通信機器が必要となる場合があります。弊社指定の通信サービスは株式会社 NTTドコモが提供する FOMA® のサービスエリア内でご利用いただけます。
※制御システムのデータ表示および遠隔制御には、インターネットに接続されたパソコン・タブレット PC・スマートフォン等が必要となります。一部機能をご利用いただくために、電子メールアドレスの登録が必要な場合があります。
※「測電LITE®」は株式会社ガリレオの登録商標 (商標登録第 5746000 号) です。
※製品の外观・仕様・価格等は予告なく変更することがあります。

Galileo

株式会社ガリレオ

■ 自然エネルギー事業部 (上田業務センター)
〒386-0027 長野県上田市常磐城5-3-14

■ 本社
〒386-0027 長野県上田市常磐城5-3-29
Tel: 0268-22-6211 Fax: 0268-22-6233

ソーラーシェアリングに関する
ご質問・ご相談は…  通話料 0120-710-635 受付時間 平日 9:30~18:00
無料

※携帯・PHSからもご利用いただけます。 ※IP電話からは0268-71-0635へおかけください(通話料はお客様のご負担となります)。

電気をつくる。お米をつくる。未来をつくる。

ガリレオの ソーラーシェアリング



株式会社ガリレオ
<http://solar.galileo.co.jp/>

Galileo

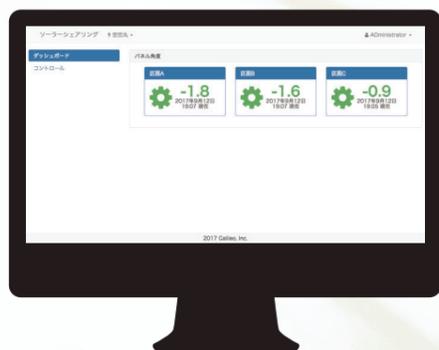
身近なところにエネルギーが
満ちあふれている

農地で太陽光発電 未来をつくる新しい農業の形

「ソーラーシェアリング」

作物の育成と発電を効率的に両立させる ガリレオの制御システム

導入事例



ダッシュボード

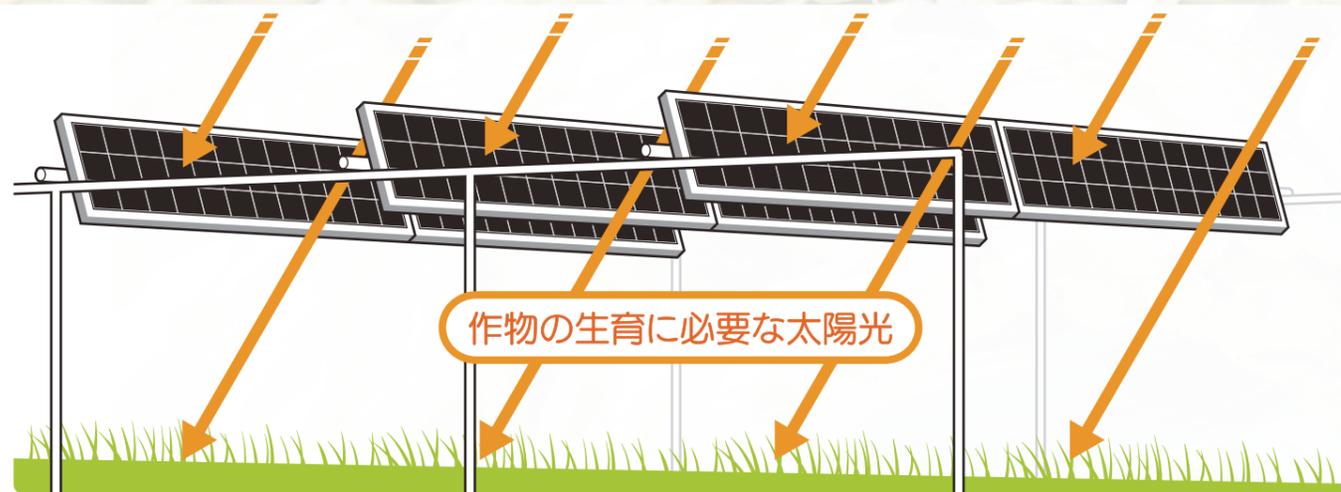


圃場の状態を定期的に定点カメラで記録することができます。

各種センサで計測したデータをもとに、太陽追尾式でモジュールの角度を自動的にコントロールすることにより、作物の育成に与える影響を軽減し、なおかつ効率的な発電を実現します。

- ・シンプルな制御機構により、安価に導入が可能で、メンテナンスも容易です。
- ・ガリレオ独自のデータベースにより、作物ごとに必要な光量を自動で計算し、適切に制御することが可能です。(特許出願中：特願 2015-128840)
- ・遠隔操作で太陽電池モジュールを任意の角度に設定することで、風や雪から発電設備や作物を守ります。
- ・20年間の売電期間中※に栽培する作物が変わっても安心です。

※10kW以上の場合、2018年現在。



作物にはそれぞれ必要とする光量があり、それ以上の光量は生育に必要なではないため、余剰な光量を売電に活用できます。長野県上田市は発電量が多く、年間1400kWh/kW以上の発電が見込めます(気象状況による)。余剰な光量を発電に回しても、作物の生育にはほとんど影響がありません。



①ガリレオは2016年5月に、長野県上田市で初めて水田上のソーラーシェアリング(発電出力49.5kWモジュール出力67.2kW)を設置しました。上田市手塚にある同設備は、三反の水田上のおよそ1,500㎡を利用していますが、農地転用面積はわずか0.14㎡となっています。2016年度の単収は、同一水田上の設備非設置区画と比較し約6.3%程度の減収にとどまり、生育に大きな影響は認められませんでした。信州大学繊維学部との共同研究によって生育状況や収量の評価を実施しており、今後も制御システムの効率化や、水稻以外の作物での実証実験等を実施していく予定です。

②2018年3月には、上田市で2箇所目となる水田上のソーラーシェアリング(発電出力49.5kWモジュール出力66.24kW)を設置しました。駆動システムによりモジュールの面積比遮光率を変更することが可能なため、遮光率を50%まで増やしたことで、架台の小型化とコストの低減を実現しました。

③2018年6月に設置した固定式のソーラーシェアリングでは、スグリとフサスグリの作付で一時転用許可を取得しました。モジュールの角度は20度で固定していますが、万が一生育に問題があった場合は手で角度を変更できるようにしています。